毎日新聞（10月13日）

# 岩室温泉の活性化へ連携

## 武蔵野美大生と住民 シンボルマークなど作成

### 地域特性、ニーズ学び

新潟市・岩室温泉のまちづくり団体と武蔵野美術大学が連携し、アート、デザインで同温泉を活性化させる取り組み「『いわむろのみらい』創生プロジェクト」を進めている。学生は同温泉のグランドデザイン、産品開発などを通して学びながら地域社会に貢献する。

「いわむろのみらい」は文部科学省の助成事業「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に今年度、選ばれた。同プログラムは社会的な政策課題のテーマに沿って大学、短大、高専から申請されたプロジェクトの中から優れたものを選び、助成している。

武蔵野美術大が02年度と04年度に卒業制作を同温泉で展示するイベント「アートサイト岩室温泉」を行ったのをきっかけに関係が深まり、学生が地域の特性、ニーズを学び、住民と協力して地域活性化に貢献することになった。

今月上旬、同大生や大学教員と、住民や同温泉関係団体役員らで作る「いわむろみらい研究会」（41人、岡崎昭会長）が同温泉で第1回合同会議を開催。参加学生らは東京からバスで岩室温泉伝統文化伝承館に到着し、同市岩室支所の観光担当者にレクチャーを受けた後、現地視察を行った。

今後、プロジェクトのメンバーは大分県湯布院町、長野県の小布施町など先進地を視察。学生が同温泉の新しいシンボルマークやロゴデザイン、街路灯、複合施設、公園などのデザインを住民側に提案する。さらに来年1月12日にシンポジウム、2月28日～3月12日にアート作品を展示するイベントを開催する。

【田中義宏】

岩室温泉についてレクチャーを受ける武蔵野美術大学の学生ら＝新潟市の同温泉伝統文化伝承館で、日報連会員・大河原良一さん写す